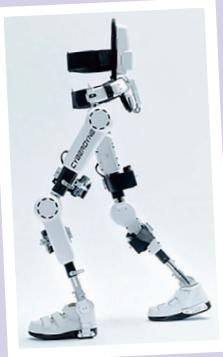


## ロボットスーツHALによるリハビリテーション



当院では、2022年1月より、ロボットスーツHALを導入し、神経系や筋肉の難病患者さんに対して、ロボットスーツHALを導入したリハビリを行っております。

下記疾患は、保険適用にてロボットスーツHALを用いてのリハビリを行うことが可能です。

- |                  |           |
|------------------|-----------|
| ○脊髄性筋萎縮症         | ○遠位型ミオパチー |
| ○球脊髄性筋萎縮症        | ○封入体筋炎    |
| ○筋萎縮性側索硬化症（ALS）  | ○先天性ミオパチー |
| ○シャルコー・マリー・トゥース病 | ○筋ジストロフィー |

お問い合わせ先  
医療相談室  
TEL 025-388-2120

### 外来診療担当表

#### ご予約・お問い合わせ

● 予約センター  
TEL 025-388-2116

● 歯科予約  
TEL 025-388-2124

● 医療相談  
TEL 025-388-2120

診療科	受付	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科	午前 8:45 ~ 11:30	秋山 琢洋	佐藤 良一	竹森 繁	塙 晴雄 糖尿病の治療 大澤 妙子 第1、第3、第5 木	塙 晴雄
	午後 13:45 ~ 15:45	(急患のみ) 竹森 繁 (要相談)	(急患のみ) 佐藤 良一 (要相談)	(急患のみ) 竹森 繁 (要相談)	佐藤 良一 竹森 繁 (要相談)	(急患のみ)
脳神経内科	午前 予約制	小池 亮子	もの忘れ診療 今村 徹 (再来のみ)	もの忘れ診療 今村 徹 (新患のみ)	大津 裕	
整形外科	午前 8:45 ~ 11:30	山本 智章 菊池 達哉 受付8:30~	大森 豪 土方 啓生	菊池 達哉	山本 智章 渡部 和敏 受付8:30~	菊池 達哉 土方 啓生
	午後 15:30 ~ 17:30	スポーツ傷害治療 (膝・足) 大森 豪 スポーツ傷害治療 (全般) 土方 啓生 骨粗鬆症の診療 高橋 榮明 山本 智章 (13:30~15:00) 予約制	慢性腰痛・せぼ ねの変形の治療 渡邊 廉 第4火 予約制	受付14:30~ スポーツ傷害治療 第1水 (膝) 谷藤 理 第3水 (肩) 望月 友晴 スポーツ傷害治療 (全般) 山本 智章	受付14:30~ スポーツ傷害治療 第1水 (膝) 谷藤 理 第3水 (肩) 望月 友晴 スポーツ傷害治療 (全般) 山本 智章	受付14:30~ スポーツ傷害治療 第1水 (膝) 谷藤 理 第3水 (肩) 望月 友晴 スポーツ傷害治療 (全般) 山本 智章
リハビリテーション科	午前 予約制	眞田 菜緒	小股 整	眞田 菜緒	崎村 陽子	小股 整
歯科 歯科口腔外科学科	午前 予約制	今井 信行	今井 信行	佐藤 尚子	今井 信行	今井 信行
	午後	今井 信行	今井 信行	佐藤 尚子	今井 信行	今井 信行

## 新潟リハビリテーション病院

広報誌

私たち、皆様に愛され、信頼される病院を目指します。

# 歩み

2022  
JUNE  
6月



2022年春、新潟リハビリテーション病院にスポーツ医学総合診療センターが開設されました。本センターはトッププロアスリート（全アーリエックスチーム）から大学競技選手、成長期スポーツ愛好家まで幅広い世代におけるスポーツ傷害治療と地域の健康スポーツ啓発・普及のための医科学診療センターです。

新潟医療福祉大学や新潟大学との連携を持ちながらスポーツ整形の診療体制を充実させるとともに、循環器や栄養、代謝など内科的側面からもアプローチして、スポーツ医学の総合的な活動の場となることを目的にしています。

新潟リハビリテーション病院は2001年開院以来、スポーツ外来、手術、リハビリテーションを軸にした診療とともにスポーツ医学研修会

### 機能訓練室



や各種大会の救護活動など、地域のスポーツを医療面からサポートしていました。

これまでの経験をもとに、関連する医療機関、スポーツ団体、企業とのネットワークを生かして新潟における新たなスポーツ医学の拠点となることを目指します。どうぞよろしくお願いいたします。

## スポーツ医学総合診療センター

開設

広報誌

# 歩み

発行月 2022年6月

発行者 新潟リハビリテーション病院  
院長 山本 智章

所在地 新潟市北区木崎761番地

TEL 025-388-2111  
FAX 025-388-3010



ホームページ

発行

# 着任のご挨拶

## リハビリテーション科

赤嶺 学 先生



2022年4月より常勤医として勤務しております。リハビリテーション科の赤嶺学と申します。

## 看護部長就任のご挨拶



3月16日より看護部長に就任いたしました吉田由美と申します。

新潟リハビリテーション病院でお世話になり2年目になります。それまでは新潟県厚生連で、豊栄病院、村上総合病院、あがの市民病院に勤務してまいりました。

実は当院の医療の内容は北区が地元でありましたが、勤務するまであまり知りませんでした。

リハビリ期の看護の経験ない私でしたが、働らかせてもらって感じたことは、退院を見据えた密度の濃い多職種でのリハビリテーションが行われている現場を目にして、何か忘れものを見つけた時のような嬉しい感覚でした。

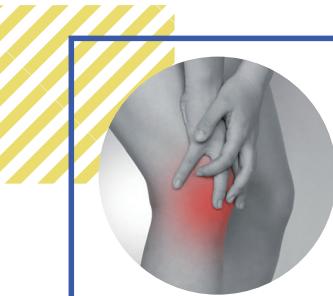
そして、リハビリテーション医療は患者さんのその人らしい生活を実現することに職員全体の力で寄り添う、魅力あふれる領域であると思い、ワクワクした気持ちになりました。病院全体の雰囲気も職員も温かく、この病院でもっと看護がしたいと思いました。

これから看護部長として、「患者・家族の思いを尊重した、ぬくもりのある質の高い看護」という看護部の理念に基づいた看護を追求し、専門職としてやりがいのある職場づくりに努め、地域の皆様とともに歩み、患者さん・ご家族と信頼のパートナーシップを築ける看護部職員の育成に力を入れていこうと思っております。

今後ともご支援とご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

## 人工膝関節手術をより短時間で高精度なオーダーメイド手術へ

### 次世代型ロボット支援手術システム 「CORI」を日本海側初導入



新潟リハビリテーション病院は、2022年3月、人工膝関節手術支援ロボット「NAVIO」TM (Smith&Nephew社製) の次世代機として開発された「CORI」を導入しました。

昨年、赤外線誘導式人工膝関節手術支援ロボット NAVIOを導入し、新潟大学整形外科との協働にて人工膝関節置換術を精力的に行ってきましたが、さらに安全で正確な手術の提供が迅速にできるよう次世代機器のCORIを導入しました。

このロボット支援手術は、主に変形性膝関節症などの手術治療のひとつである人工膝関節置換術で使用されます。

CORIは2012年から世界各国で使用してきたロボット支援手術システム「NAVIO」からさらに進化し、新しい骨切除用器械を導入することで手術時間を短くすることが可能となります。また、専用のハンドピースや新しい赤外線カメラの導入によって位置情報の認識スピードが向上することでより安全かつ正確な手術が期待できます。

当院ではこのシステムの導入と質の高いリハビリテーションにより、患者の術後のQOL(クオリティオブライフ)の更なる向上を目指しています。

新潟県で初となる最先端の医療技術を用いて、膝疾患で苦しむ皆様の痛みを軽減し、地域高齢者の健康長寿に貢献できることを願っています。

本年5月1日より当院に入職いたしました近藤悟と申します。

私は当初内科を専門としておりましたが、2021年3月11日の東日本大震災が契機として、リハビリテーション科に転科いたしました。人生には何があるかわからない、大災害には人は無力であると痛感し、心残りのない人生を送ろうと決心した結果でした。

2022年4月より常勤医として勤務しております。リハビリテーション科の赤嶺学と申します。

当院の特徴でもある回復期リハビリテーション病棟は、脳卒中や骨関連疾患などに対する急性期治療を終えた患者さんに対して、長期的（最長で180日）かつ集中的なリハビリテーションを行う目的で2000年に制度化されました。疾患有によって障害された機能の回復が第一の目標となりますが、適切な機能訓練を行ったとしても機能障害が残存することは珍しくありません。そのような場合は障害が残存していくことでも生活することができます。そのため、リハビリテーション医学は人間の知的側面をケアする分野であり、是非勉強したいと考えた次第です。

さて最近衝撃に近い感動を受けたことがあります。「人はどうして歳をとると、時間が速く過ぎるか？」ということです。TVのバラエティ番組で知ったことですが、ご存知の方もたくさんいらっしゃるかもしれません。答えは、「人の時間は、その人の人生の逆数に反比例して過ぎていく」からだそうです。

50歳の人は、5歳の子供にくらべて10倍も早く時間が過ぎていく」ということになります。医学的には証明することは不可能な答えですが、私は深く納得してしまいました。

私の人生の目的、それは「人間とはなんだろう？」という疑問の答えに少しでも近づくことです。その意味で医学は恰好の分野なのですが、中でもリハビリテーション医学は人間の知的側面をケアする分野でもあり、是非勉強したいと考えた次第です。

さて最近衝撃に近い感動を受けたことがあります。「人はどうして歳をとると、時間が速く過ぎるか？」ということです。TVのバラエティ番組で知ったことですが、ご存知の方もたくさんいらっしゃるかもしれません。答えは、「人の時間は、その人の人生の逆数に反比例して過ぎていく」からだそうです。

50歳の人は、5歳の子供にくらべて10倍も早く時間が過ぎていく」ということになります。医学的には証明することは不可能な答えですが、私は深く納得してしまいました。

## リハビリテーション科

近藤 悟 先生



## 整形外科

土方 啓生 先生



2022年4月から新潟リハビリテーション病院の整形外科に勤務させていただいております土方啓生と申します。膝や肩を中心としたスポーツ・関節外科を専門としておりますが、骨折などの外傷も積極的に治療しております。

当院では体幹から四肢までのすべての運動器を対象としており、組織としても骨・軟骨・韌帯・筋肉・神経など範囲が非常に多岐に渡ります。また骨折などの急性疾患から変形性膝関節症などの慢性疾患まで病態も幅広く、それらを病歴や診察所見とX線・CT・MRI・エコーなどの検査結果を踏まえて総合的に診断します。整形外科と聞くと手術のイメージが強いかも知れませんが、手術は治癒に向かうきっかけであり、その後のリハビリテーション次第で予後が大きく変化するため術後の治療が大切となるってまります。当院はリハビリテーションの分野が充実しており、手術後の症例に限らず保存加療の症例においても治療の大好きな支えとなっています。

支援ロボットを導入した人工膝関節置換術などの新しい技術を積極的に導入しており、患者の方々それぞれの病状に適した治療を心がけて診療を行っていきたいと思います。